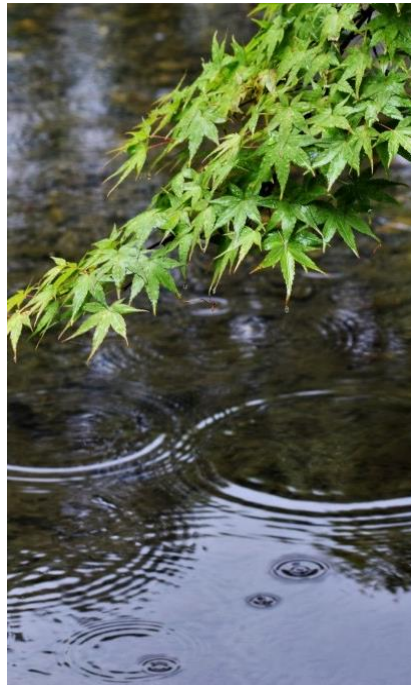


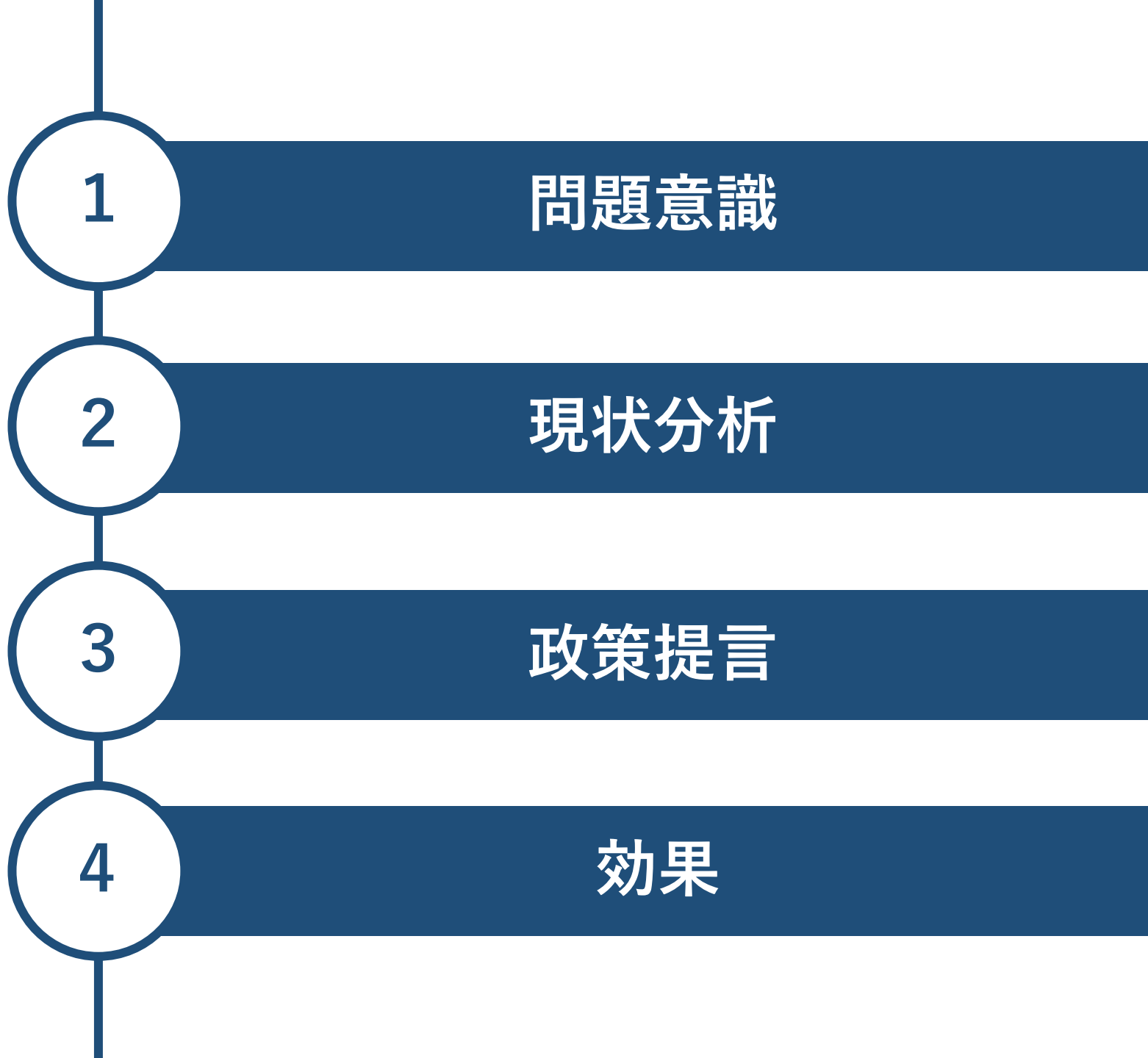


住民参加による 「雨庭」普及策について

ー「アメニワーク」の導入ー



同志社大学政策学部 風間ゼミナール雨庭班
小菅真大 岩堀楽々 植村森平
川上愛未 久安菜々美 和田楓夏



問題意識

集中豪雨

社会資本の老朽化

不透水層の増加

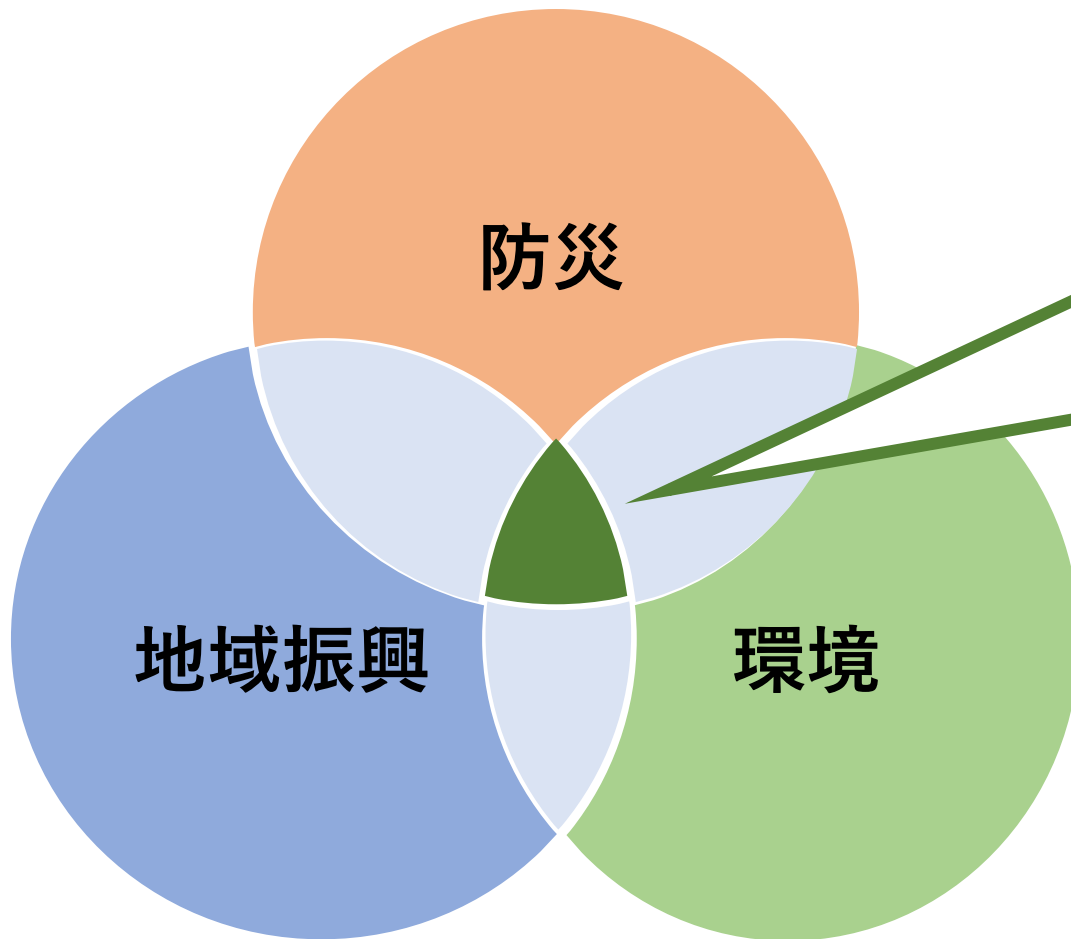
浸水被害の増加

京都市中京区で1時間で88mmの大雨を観測（2022年7月19日）



出典：京都新聞(2022)

市内各地に深刻な浸水被害をもたらした



グリーンインフラ

自然環境が有する機能を、
地域の魅力向上や防災に活用する考え方

国や京都市が活用を推進

京の伝統「雨庭」

グリーンインフラ

地上に降った雨水を下水道に**直接放流することなく**，
一時的に貯留し，**ゆっくり地中に浸透させる**構造を持った緑地のこと



雨庭の「雨水流出抑制機能」

STEP 1

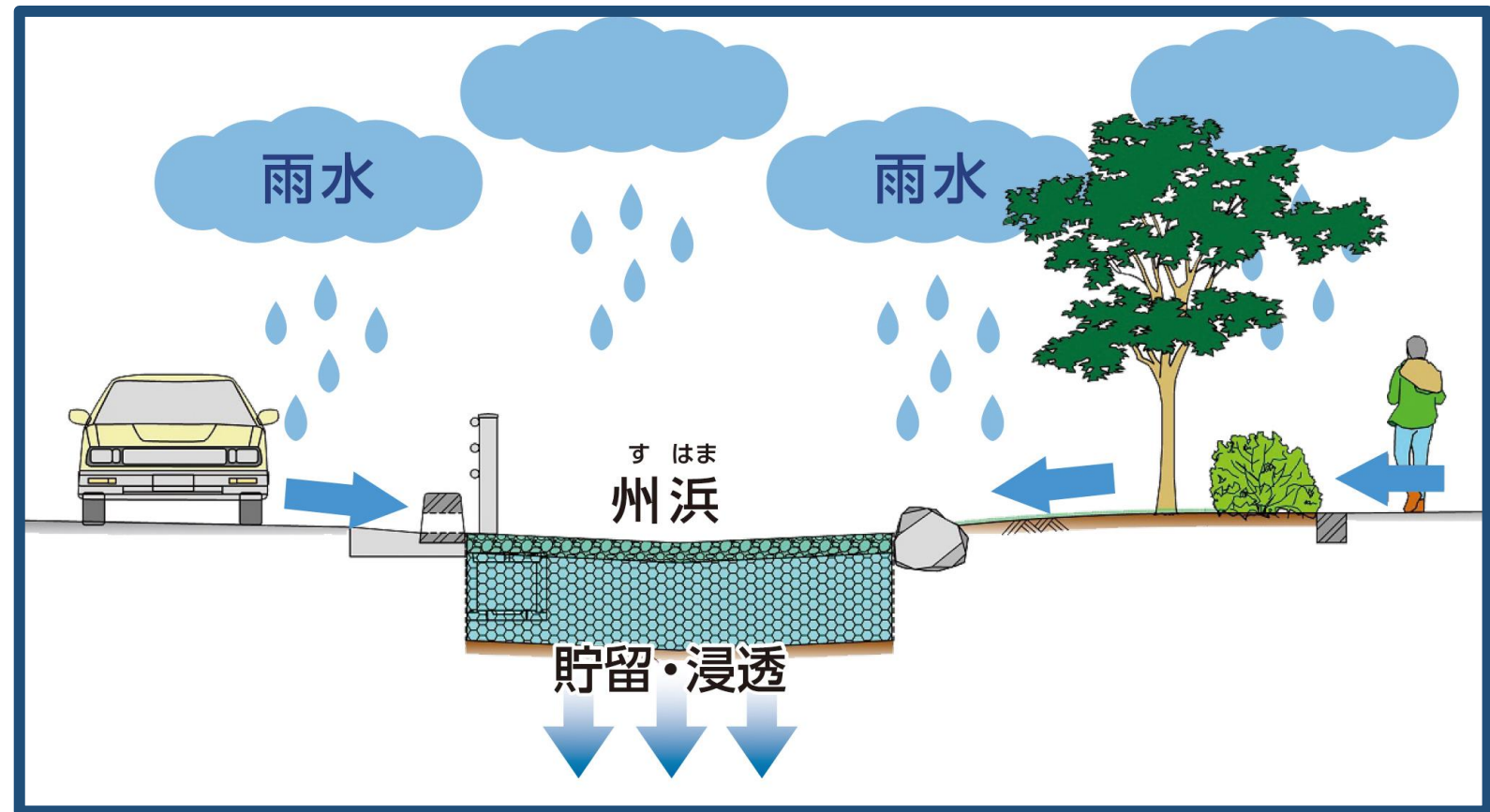
集水

STEP 2

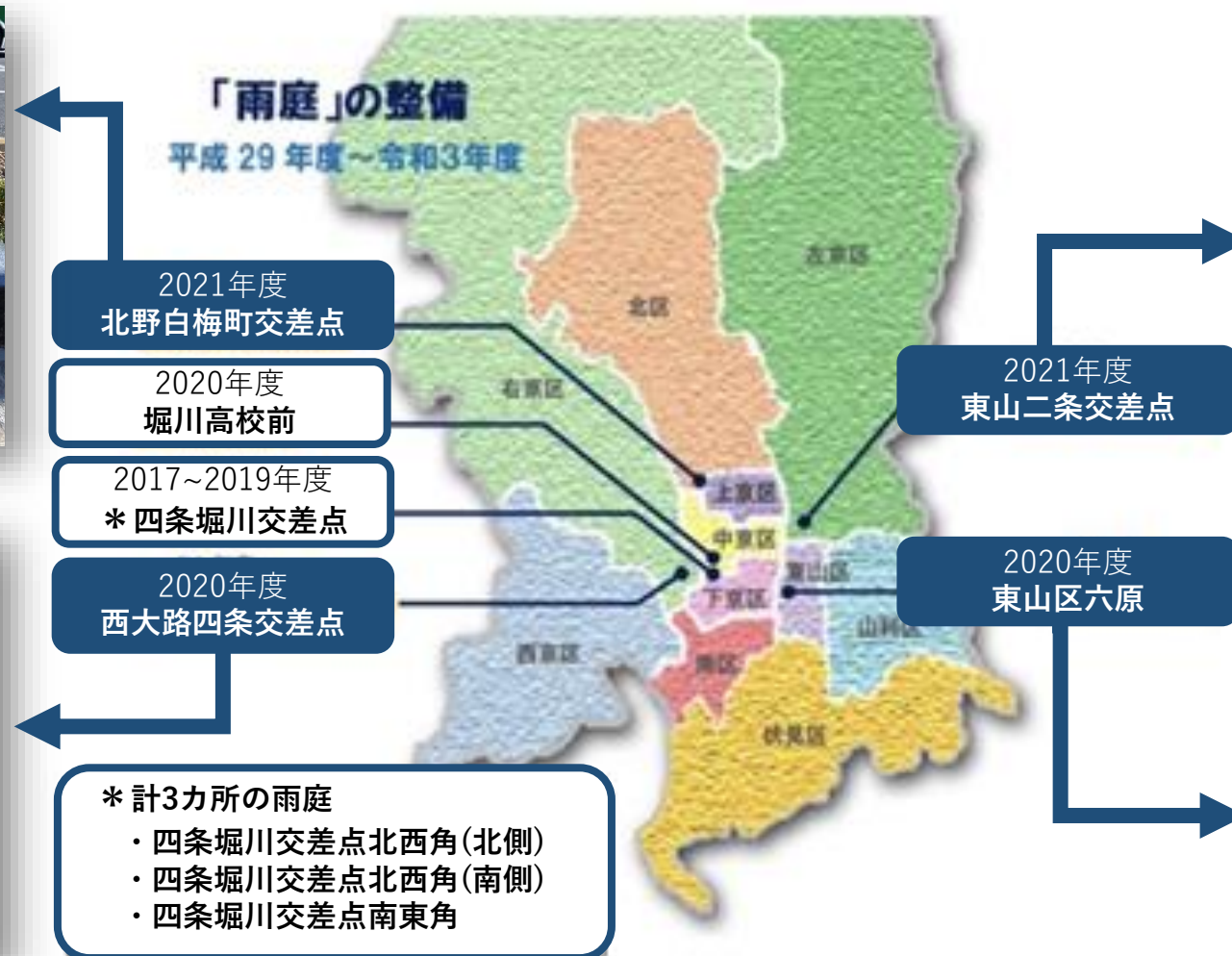
貯留

STEP 3

浸透



2017-2021年度で8ヶ所建設



雨庭の効果はどのくらい??

京都市内全ての雨庭の雨水一時貯留量の合計は、、、

62.1m³

浴槽
約310杯

しかし、まだ大雨に対応できる量ではない

浸水被害を軽減するには
雨庭の数が少ない

雨庭の更なる普及が必要

現状分析

調査 1 | 行政へのヒアリング

京都市建設局みどり政策推進室を訪問（2022年10月19日）

1. 雨庭整備のプロセス

- 市の担当職員のみで行なっていた（東山区六原を除く）

2. 雨庭整備後の維持管理

- 日頃の管理が行き届かない
- ボランティアの参加者が少ない

地域住民が雨庭に関わる機会がなく、認知度が低い

調査 2 | 地域住民へのインタビュー

目的：雨庭の認知度調査（2022年10月20日）

場所：四条堀川交差点の雨庭

対象：地域住民**50**名



雨庭の機能を
知っていますか？

いいえ **86%**

認知度が向上すれば...

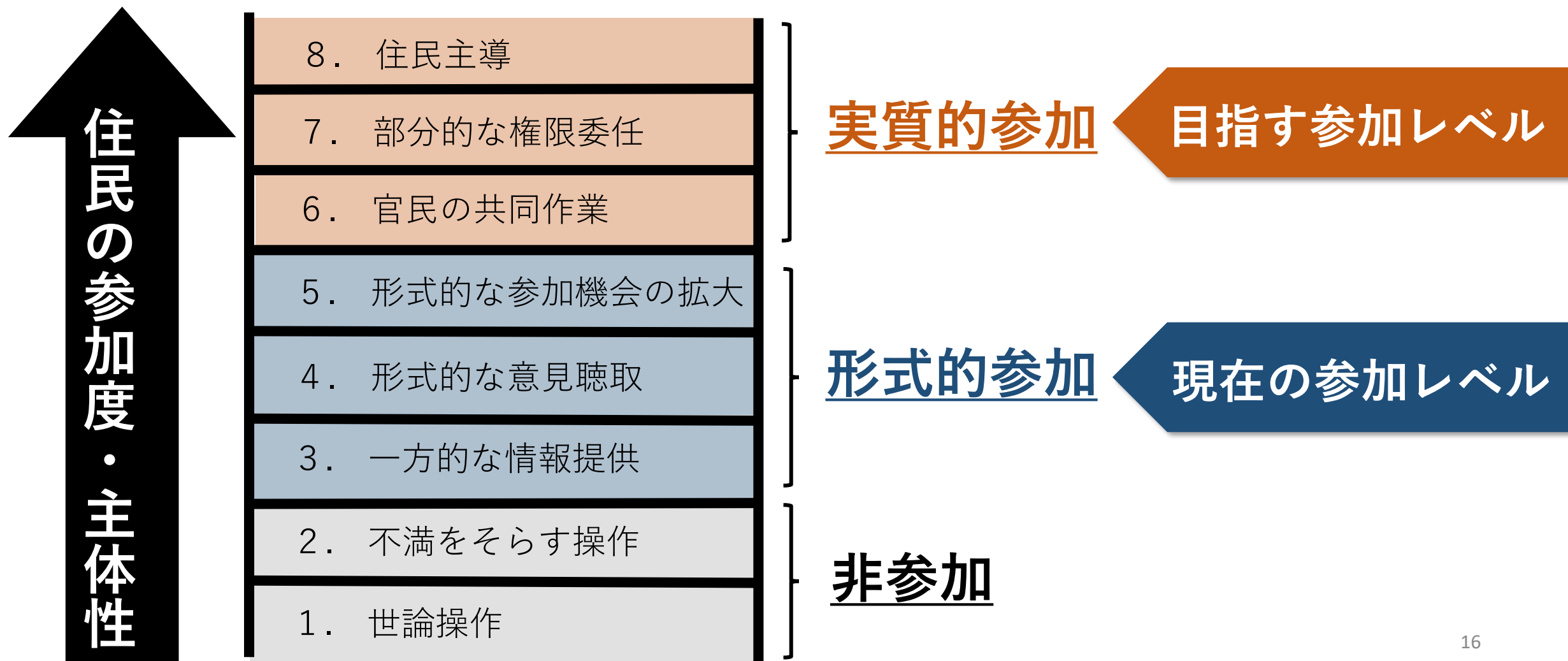
住民の関心が高まる

Ex. 「こんな雨庭があったらいいのになあ」 「この場所に雨庭をつくってほしい！」

更なる普及には

住民参加型の雨庭が効果的

「住民参加のはしご」モデル 【アーンスタイン提唱】



分析結果 | 実質的参加の達成に向けて

1

雨庭の
認知度向上

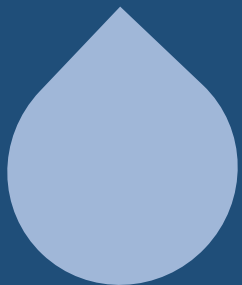
2

住民が雨庭作り
に参加

3

住民参加型の
雨庭普及

政策提言



住民参加による 「アメニワークプロジェクト」



STEP 1

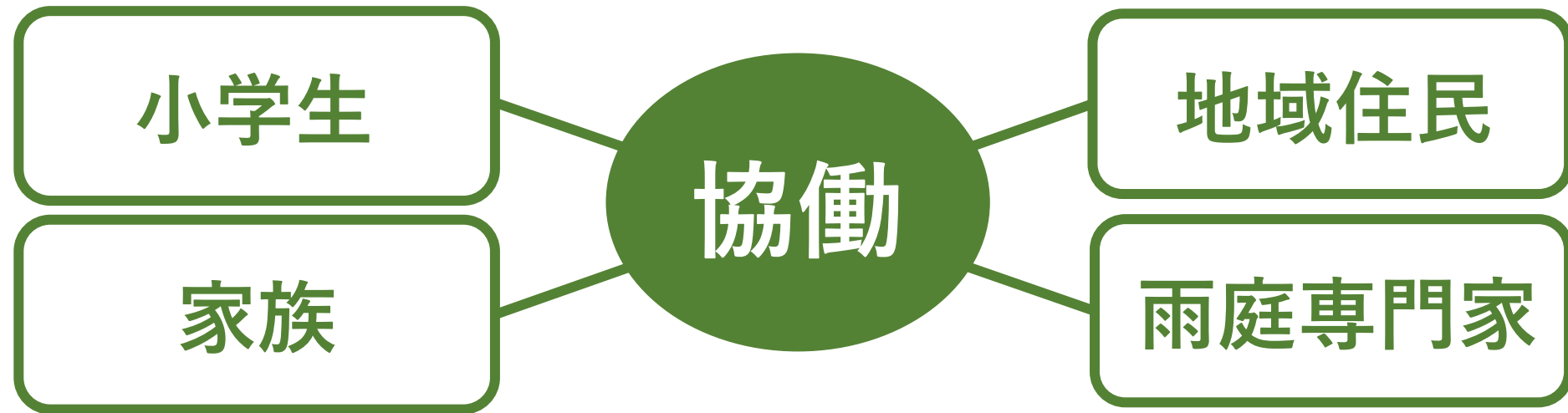
雨庭づくり体験教室

STEP 2

ワークショップの開催

住民参加型雨庭を普及させるための2段階プロセス

STEP 1 | 簡易的雨庭づくり体験教室



目的①

幅広い年代が雨庭を知る **きっかけ** となり、認知度が向上する

目的②

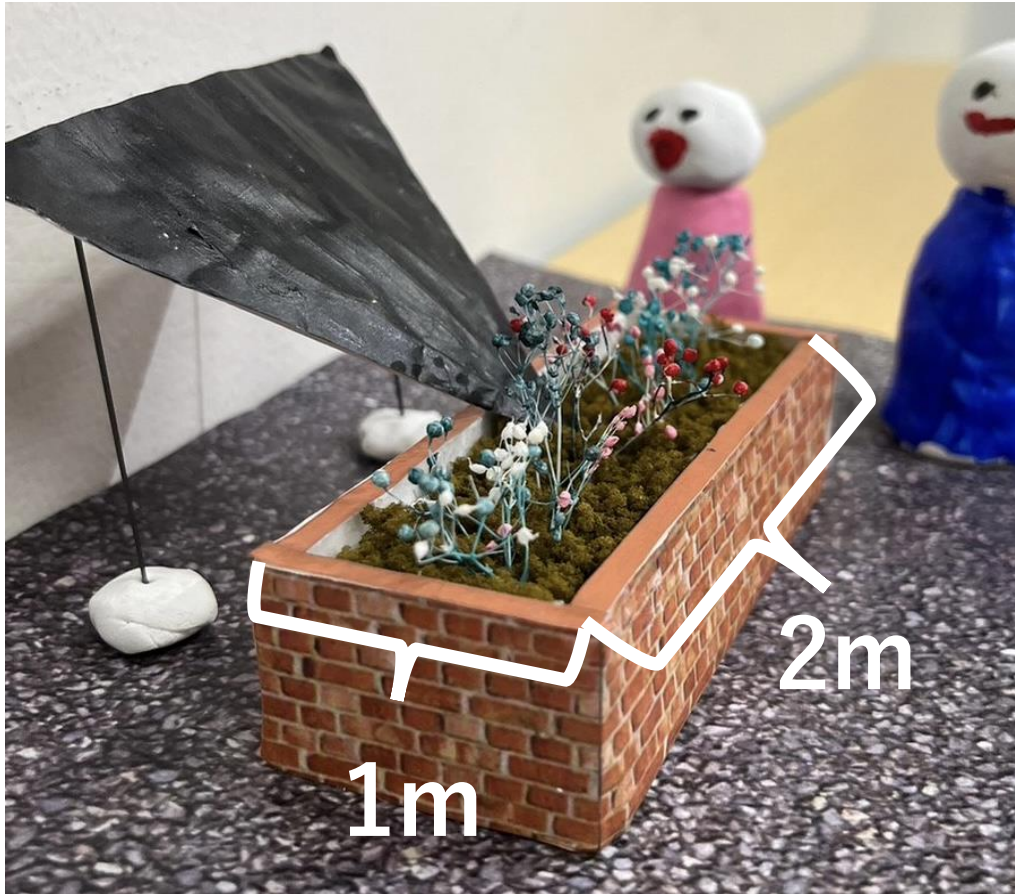
楽しみながら 作成する過程を通して、雨庭の基礎知識を得る

STEP 1 | 簡易的雨庭づくり体験教室

?? なぜ小学校なのか ??

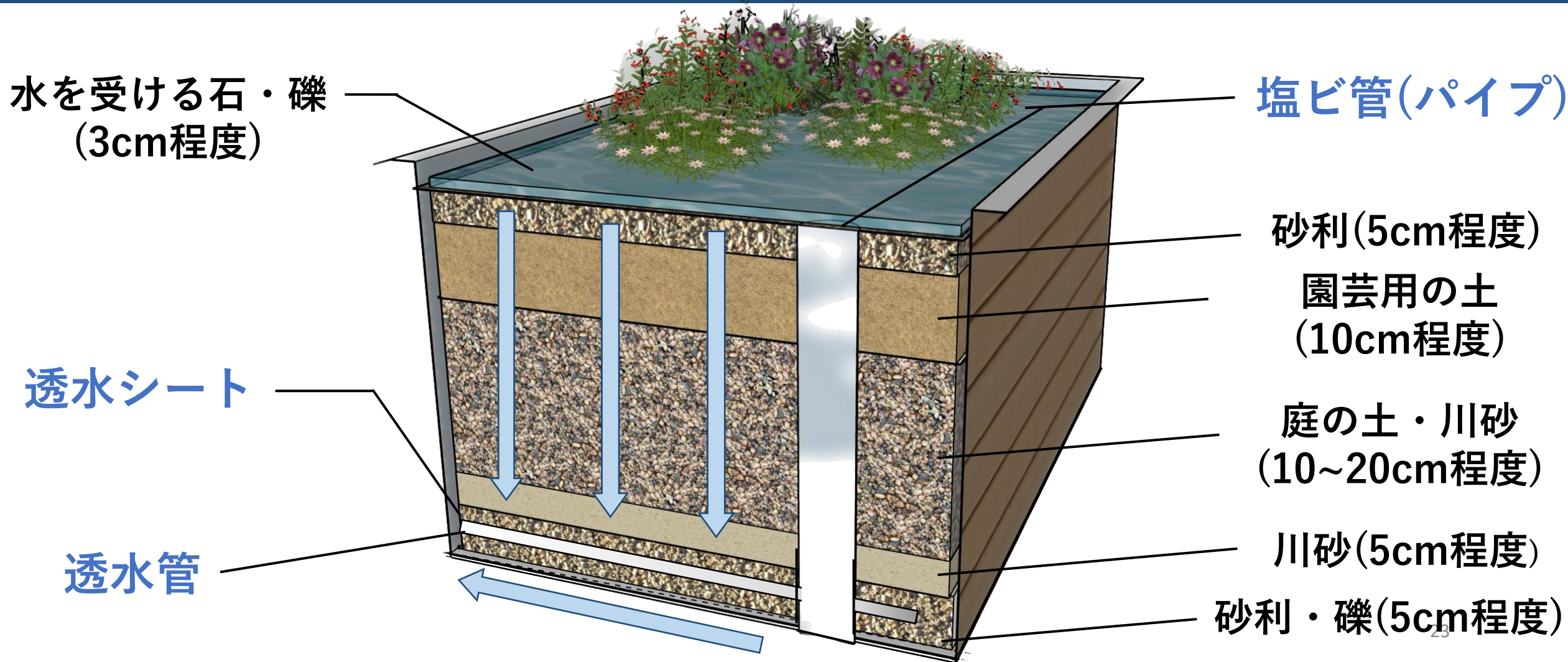
- ・ 早期段階からまちづくりに関わる機会を提供できるため
- ・ 学校区が細かく分けられている小学校を活用するため
- ・ 環境教育の一環として組み込みやすいため
(例：ビオトープ)

簡易的雨庭【20分の1縮小模型】

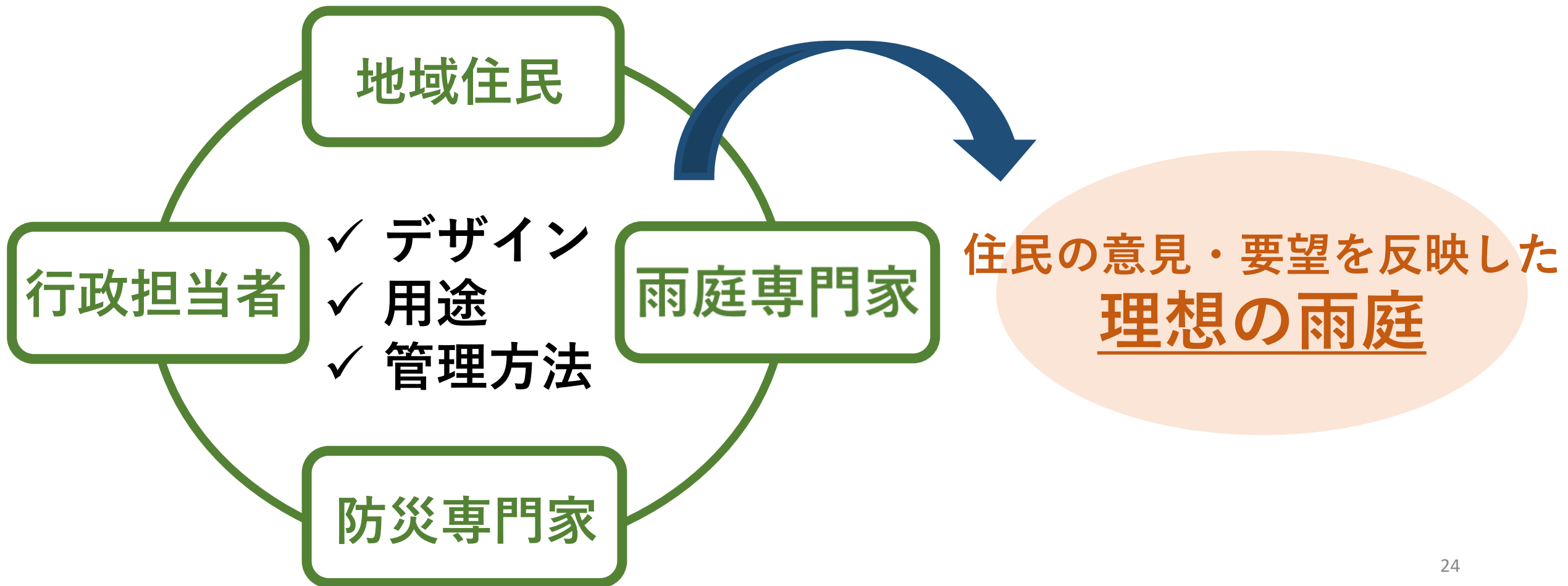


* 作成にあたり、京都先端科学大学バイオ環境学部バイオ環境デザイン学科 **阿野晃秀教授**にお話を伺いました。

簡易的雨庭【断面パース】



STEP2 | ワークショップの開催



STEP2 | ワークショップの開催

「堀川ワークショップ」：住民の様々な意見の反映



效果

政策の効果

1

雨庭の
認知度向上

(例)親子で雨庭づくり
体験教室に参加

興味

2

住民が雨庭作り
に参加

(例)関心を持った親が
WSに参加

理解

3

住民参加型の
雨庭普及

雨庭に対する愛着・関心が高まる

雨庭を綺麗な状態に保ちたいと思う

適切な維持管理が行われる

住民参加型雨庭が普及する

地域コミュニティが活性化する

地域課題解決につながる

子供の見守り隊

災害時の共助

地域文化の復興

参考文献

- ・ 京都市上下水道局(2012)「雨水の貯留浸透」 <<https://www.city.kyoto.lg.jp/suido/page/0000115702.html>>
- ・ 京都市情報館(2022)「雨庭とは」 <<https://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/page/0000291580.html>>
- ・ 京都市情報館(2022)「雨庭整備位置図(令和4年3月現在)」 <<https://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/page/0000291674.html>>
- ・ 京都市情報館(2022)「堀川水辺環境整備事業」 <<https://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/page/0000272247.html>>
- ・ 京都市防災ポータルサイト(2014)「京都市 「雨に強いまちづくり」 推進行動計画」
<<https://www.bousai.city.kyoto.lg.jp/cmsfiles/contents/00000000/458/koudoukeikaku.pdf>>
- ・ 京都地方气象台(2022)「令和4年7月19日の大気不安定による大雨について」
<https://www.jma-net.go.jp/kyoto/2_data/report/doc/kishousokuhou20220719.pdf>
- ・ 京都新聞(2022)「【大雨】京都市中京区で88ミリの雨 1時間雨量で史上1位」
<<https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/839428>>
- ・ 国土交通省「環境：グリーンインフラ」 <https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_mn_000034.html>
- ・ 国立研究独立法人 国立環境研究所(2020)「都市型洪水について」 <<https://www.nies.go.jp/kanko/kankyogi/78/column1.html>>
- ・ 安武 伸朗・荒石 磨季・下山 絢香・渡邊 聡美(2021)「市民が実践者に変容するしくみの考察 2 -触媒者の重要性と行政が果たす役割の可能性-」、日本デザイン学会 第68回春季研究発表大会、374-375頁
- ・ 大堀研(2013)「災害後の計画策定と住民参加とが両立する条件」地域社会学会年報、25巻、127－142頁
- ・ 久谷明子(2018)『都市地理学』 「子どものまちづくり活動を通じた活動場所の拡大と世代間交流 ―こうちこどもファンドを事例に一」、13巻、63 - 76頁